

1P158

早期養育期における双子をもつ父親の思い-妻との協働育児を通して-

横山直美¹、藤田千春²¹秀明大学 看護学部²国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 看護学科

【目的】

多胎児をもつ夫婦は、早産児や低出生体重児というリスクの高い子どもを養育している場合が多く、身体的・精神的・社会的負担が大きい。そのため、夫婦の相互理解をすすめ、関係性を良好に保ちながら、協働した育児を行う夫婦ペアレンティングの質の向上が求められる。多胎児をもつ母親は、自身の夫に対し価値観の違いを感じ、夫との感情の共有を希望していた（白坂2013）。一方で、多胎児をもつ父親が自身の妻に対する思いの詳細は明らかでない。そこで、本研究は、早期養育期における双子をもつ父親が自身の妻に対する思いを明らかにすることを目的とした。

【方法】

対象は研究協力の得られた双子サークル会員等の0～3歳の双子を育児した父親とした。調査期間は2020年1月～7月。インタビューガイドを用いて対象の背景と妻への思いに関する半構造化面接を行った。同意を得て録音したデータから逐語録を作成し、質的記述的に分析した。

【倫理的配慮】

研究者が所属する大学の倫理委員会の承認を得て行った。

【結果】

対象者は16名であった。妻に対する思いとして【4カテゴリー】《15サブカテゴリー》が抽出された。父親は、《同時育児する妻の大変さに同感》し《双子育児する妻への感謝》や《育児パートナーとしての信頼感》といった【双子育児する妻への敬意】を抱いていた。育児する妻の姿を見て《妻の育児負担を減らしたい》《妻の気分転換を図りたい》《妻にお金のことで苦労させたくない》等の【妻の負担軽減への望み】があった。妻と育児をめぐり父親は、《育児協力ができていない申し訳なさ》がある一方《妻からの期待される父親役割の負担感》や《妻との育児・家事の考えの相違》《育児を頑張っている僕を認めて欲しい》等の【妻と協働する育児の困惑】があった。さらに《夫婦の時間が減った寂しさ》や《妻とのトラブルを回避したい》といった【夫婦間の情緒的交流の縮小化】を抱いていた。

【考察】

双子をもつ父親は、双子育児をする妻の苦勞に共感や感謝し、妻を支えたいと思っていた。これらの思いは、夫婦間の絆が深まると考えられるが、妻からの期待される父親役割の負担感、育児を頑張っている自分を認めて欲しいという思いもあった。そのため、父親のワーク・ライフ・バランスの調整と共に、夫婦間の役割調整を促すことや父親の育児行動に対する妻の支持的な関わりも重要と考えられた。

1P159

低出生体重児における母子間の相互交渉の在り方と育児ストレスとの関連

金城志麻¹、新田あや²、木里頼子³、真喜屋智子³¹琉球大学障がい学生支援室²沖縄市役所こども相談・健康課³沖縄県立中部病院総合周産期母子医療センター新生児内科

【目的】

新生児集中治療は新生児の死亡率低下に寄与する一方で、出生直後の分離等により母子関係形成を困難にする要因（住田，1999）も孕んでおり、母親は期待に反した出産体験の無念さや、小さく産んだことへの罪悪感といった葛藤を抱えることが指摘されている（佐藤，2012）。そこで本研究は出生体重・愛着関係に焦点をあて母親の育児ストレスと相互交渉について検討を行う。

【方法】

対象 正期産児の母親19名（母：Mean 36.32歳，SD 5.08，子：Mean 39.68ヵ月，SD 14.65）低出生体重児（極低出生体重児13名含）の母親24名（母：Mean 33.67歳，SD 4.74，子：Mean 42.03ヵ月，SD13.59）計43名

調査期間 2016年～2017年

材料 ①日本語版Parenting Stress Index ②子の不安喚起場面で愛着行動、母子遊び場面で相互交渉行動を評定（各VTR録画）

【結果】

極低出生体重児群は、正期産児群より「子育てにより己の時間や行動が規制される」ストレスが低く（ $\chi^2=6.56$, $df=2$ ）相互交渉では子発信の交渉（ $\chi^2=6.36$, $df=2$ ）母親の応答（ $\chi^2=6.92$, $df=2$ ）が多かった（ $p<5\%$ ）。

出生体重と愛着行動で4群に分け、育児ストレス、発信・応答の内容、発信・応答の主体、相互交渉数について検討した結果、低出生体重児・消極的愛着行動群の母親は、正期産児・積極的愛着行動群より「子が期待通りにいかない」（ $\chi^2=8.84$, $df=3$ ）「子に問題を感じている」（ $\chi^2=9.23$, $df=3$ ）ストレスが高く、相互交渉では子の意図的発信（ $\chi^2=8.17$, $df=3$ ）子発信の交渉（ $\chi^2=8.30$, $df=3$ ）が多かった（ $p<5\%$ ）。

【考察】

極低出生体重児の母親は、非常に小さく産まれた子への心配から、子育てで己の時間等が規制されると感じる事が少なく、さらに子の発信にも繊細に応答していると考えられる。その一方で、不安場面で助けを求める行動が消極的な低出生体重児の母親は、子の行動が期待通りではなく問題を感じる等のストレスが高いため、遊び場面で子は関心を引きつけようと母にシグナルを発信するものの応答できないという関りのすれ違いが生じていると考えられる。母子間の関わりと子の発達は関連している（篠原，2011）ため、出生体重に支援の目を向けるだけでなく母子関係構築に注目した支援を行う必要性が示された。